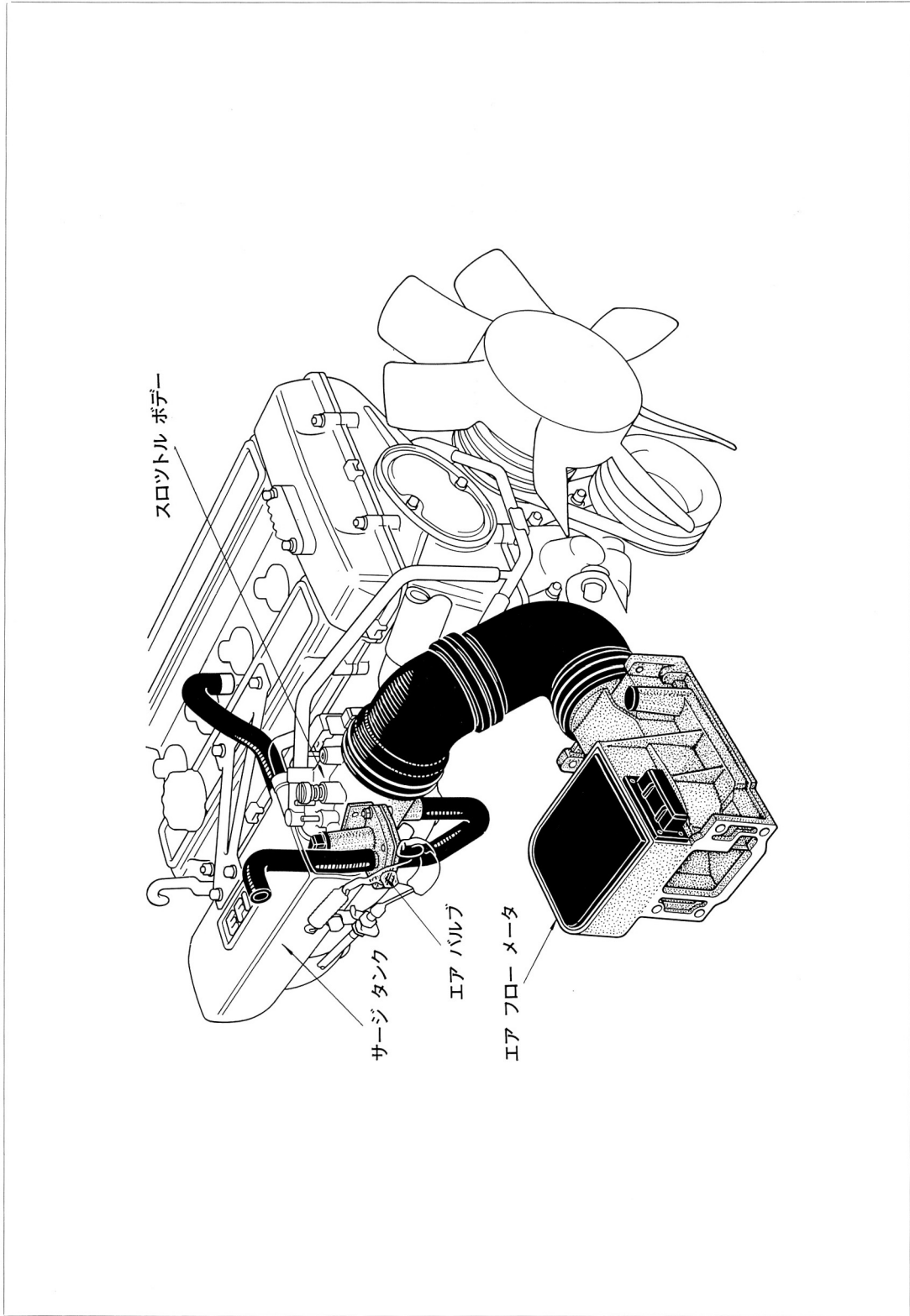


吸気, 制御系統

吸気系統図	5-2
制御系統図	5-3
構成部品および締め付けトルク	5-4
SST, 工具, 計器	5-5
エア フロー メータ	5-5
スロットル ボデー	5-7
サージ タンク	5-12
インテーク マニホールド	5-15
サーキット オープニング リレー	5-18
スタート インジェクタ タイム スイッチ	5-19
エア バルブ	5-19
メイン リレー	5-20
水温センサ	5-21
ソレノイド レジスタ	5-22
コンピュータ	5-23
フューエル カット機能点検	5-26

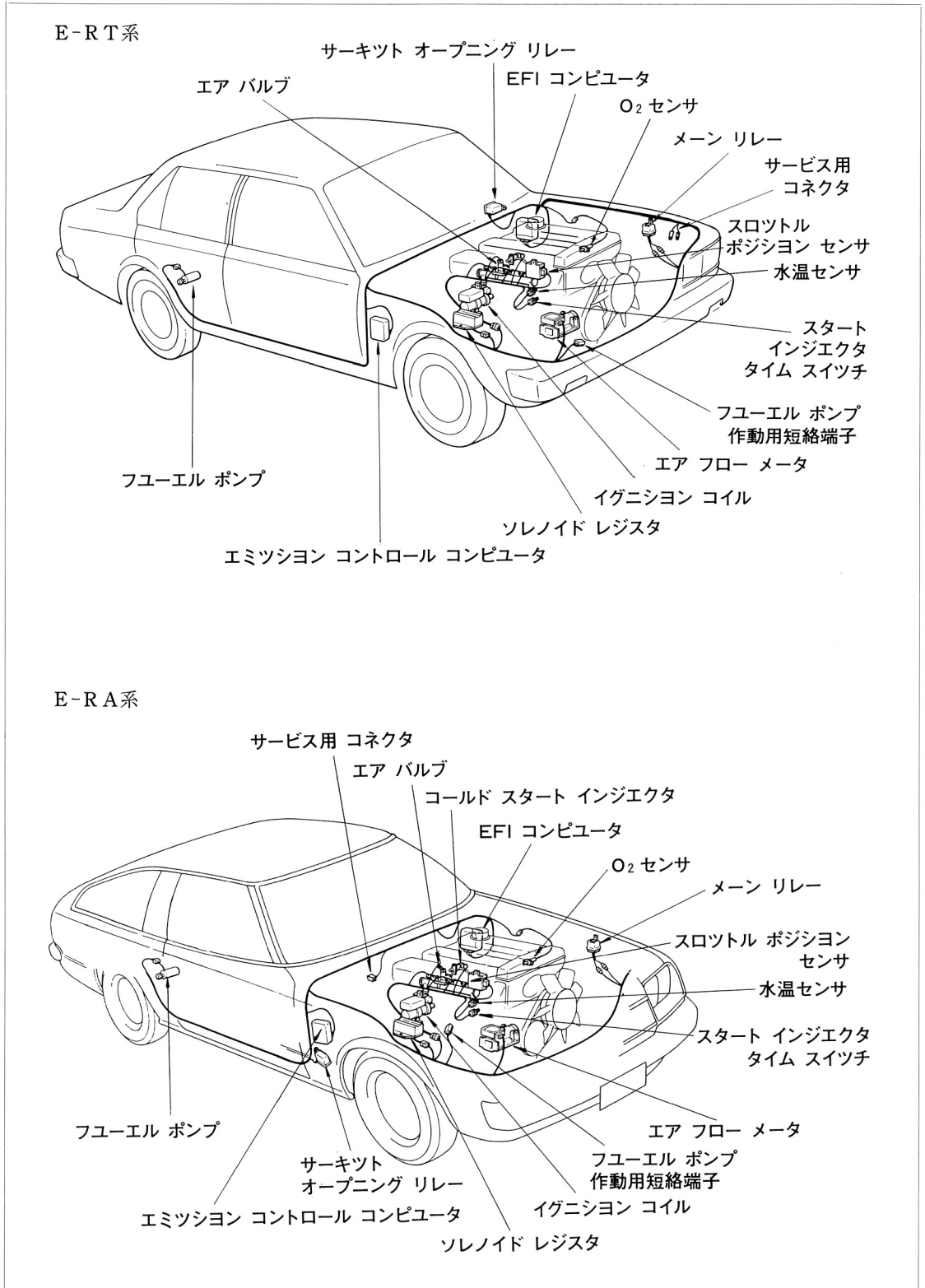
吸気系統図



M6080

図5-1 吸気系統図

制御系統図

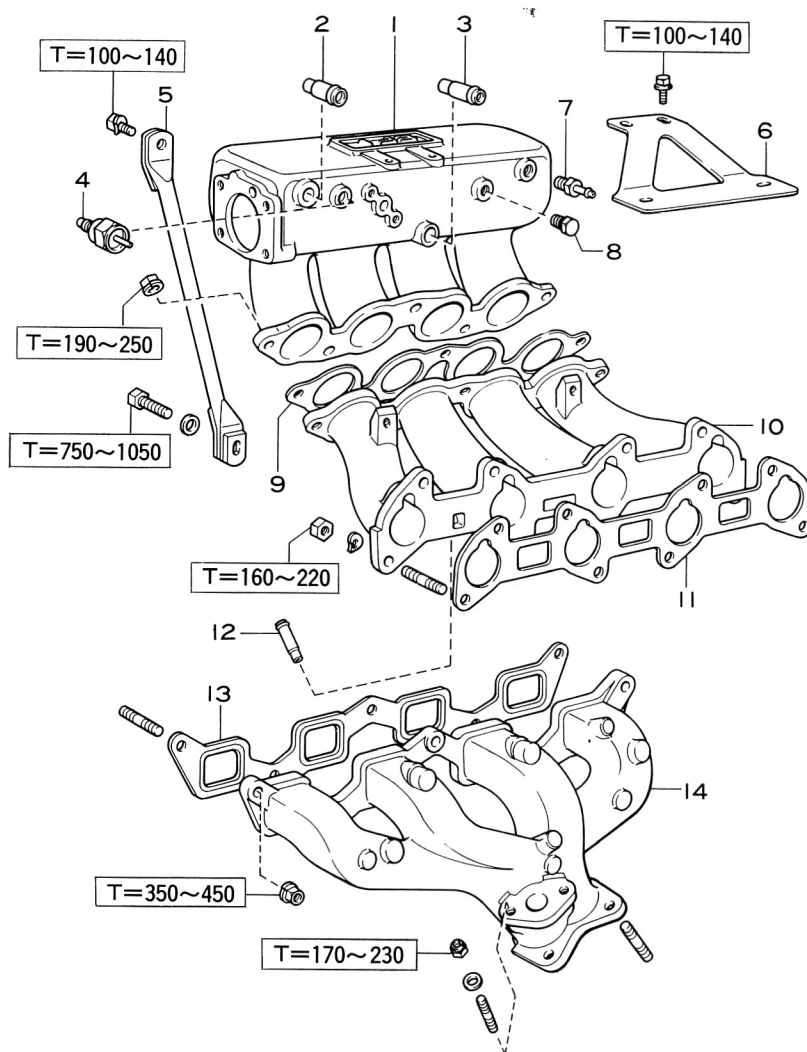


5

図5-2 制御系統図

M7507 M7508

構成部品および締め付けトルク



[締め付けトルク単位: kg-cm]

- 1 タンク, インテーク エア サージ
- 2 ユニオン (PCV用)
- 3 ユニオン (エア バルブ用)
- 4 ガス フィルタ
- 5 ステア, サージ タンク, No. 2
- 6 ステア, サージ タンク, No. 1
- 7 ユニオン (ブースタ用)
- 8 プラグ, スクリュー

- 9 ガasket, サージ タンク
ツウ インテーク マニホルド
- 10 マニホルド, インテーク
- 11 ガasket, インテーク マニホルド
ツウ シリンダ ヘッド
- 12 ユニオン
- 13 ガasket, エキゾースト マニホルド
ツウ シリンダ ヘッド
- 14 マニホルド, エキゾースト

図5-3 構成部品および締め付けトルク

M5841

SST, 工具, 計器

S S T		09842-30011	ワイヤ セット, E F I インスペクション
計 器	直定規, シツクネス ゲージ, サークット テスタ		

図5-4

エア フロー メータ

車上点検

コネクタを取りはずし, 各端子間の抵抗を測定する。(メジャリング プレート全閉時)

端 子	抵 抗 値 (Ω)
$E_2 \leftrightarrow V_S$	20~100
$E_2 \leftrightarrow V_C$	100~300
$E_1 \leftrightarrow V_B$	200~400
$E_2 \leftrightarrow T H A$	-20°C 10000~20000
	0°C 4000~7000
	20°C 2000~3000
	40°C 900~1300
	60°C 400~700

〈要点〉

外気温はエア フロー メータの周囲で測定すること。

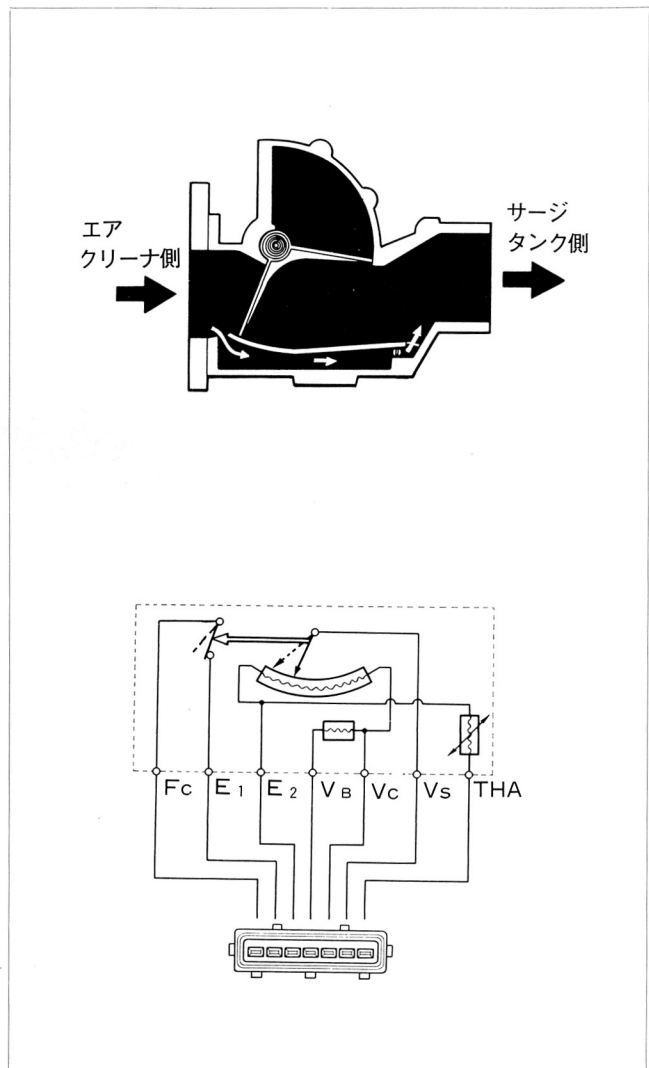


図5-5 エア フロー メータ抵抗点検

M2891 S8345

5

取りはずし

(1) 次の部品を取りはずす。

- ① バッテリ ⊖ 端子
- ② インレット, エア クリーナ
- ③ エア クリーナ ケース & エレメント
- ④ コネクタ
- ⑤ エア クリーナ ホース
- ⑥ エア フロー メータ

〈注意〉

エア フロー メータは衝撃を与えないよう, 取り扱いには充分注意すること。

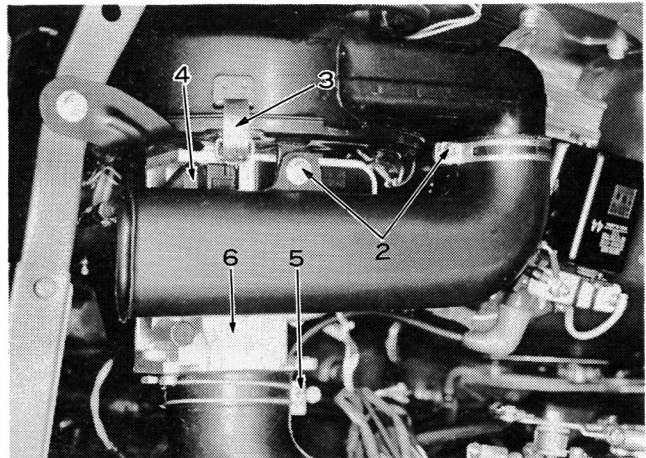


図5-6 エア クリーナ取りはずし

H6910

点 検

(1) 次の点検をし, 不良の場合は交換する。

- ① ボデーのき裂
- ② シヤフトのガタ
- ③ メジャリング プレートの引っかかり
- ④ 端子間の導通および抵抗

車上点検のほかに次の点検を行なう。

- a. メジャリング プレートを少し押しあける。

$E_1 \leftrightarrow F_C$ 間 導通あり

- b. メジャリング プレートを全開する。

$E_2 \leftrightarrow V_S$ 間 20~1000Ω

〈注意〉

メジャリング プレートを全閉から開いていくと抵抗値は20~1000Ωの範囲を大~小~大と変化しつつ大きくなる。

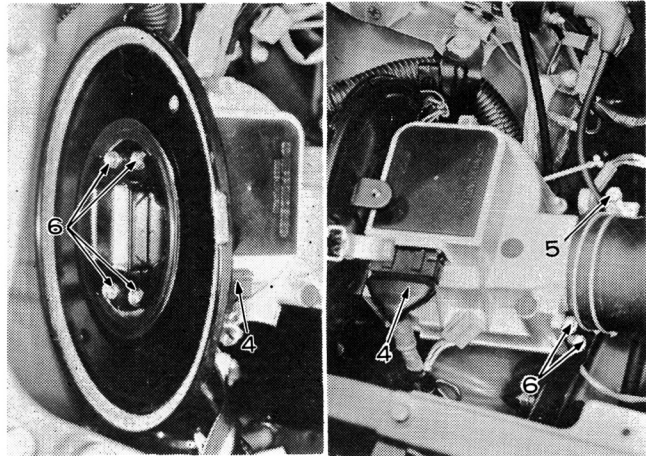


図5-7 エア フロー メータ取りはずし

H6912 H6911

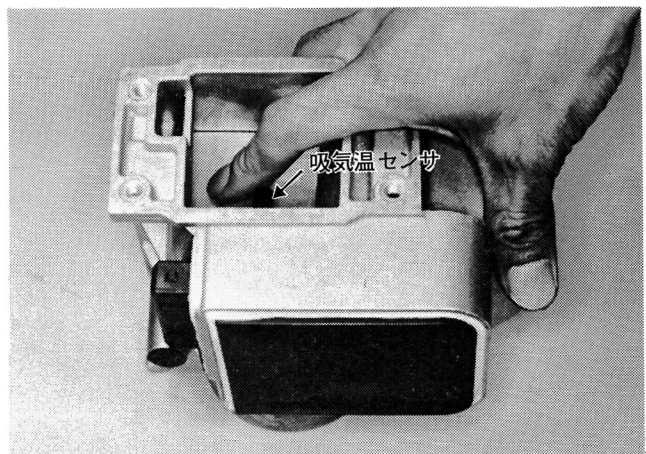


図5-8 エア フロー メータ点検

H6913

スロットル ボデー

車上点検

- (1) スロットル バルブ取り付け位置点検
 - ① エンジンを始動する。
 - ② バキューム ゲージをスロットル ボデーのアドバンス ポートに接続する。
 - ③ アイドル回転中はゲージの指示が0（大気圧）であること。
 - ④ スロットル バルブを少し開いたときバキュームがかかること。

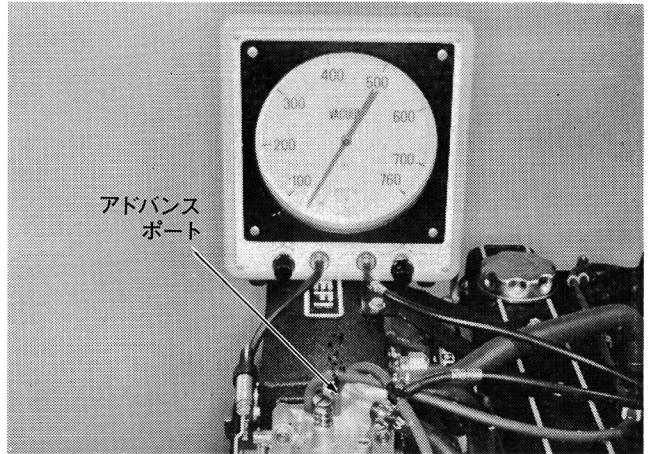


図5-9 スロットル バルブ セット位置点検

H6914

〈注意〉

この点検で異常のあるときは、次のスロットル ポジション センサ取り付け位置にも影響があるため、取りはずして単体点検を行なうこと。

- (2) アクセル ワイヤの作動が円滑であり、ストツパ ボルトとスロットル レバーの間にすき間がないこと。
- (3) スロットル ポジション センサ導通点検
コネクタを取りはずし、各端子間の導通を点検する。

5

スロットル バルブ開度 〔全閉より〕 (度)	ストツパ ボルト とレバーとのすき間 (mm)	IDL↔TL	PSW↔TL	IDL↔PSW
1.5以下	0.34	導通あり	導通なし	導通なし
2.0~20	0.7(2°)	導通なし	↑	↑
約20以上	—	↑	導通あり	↑

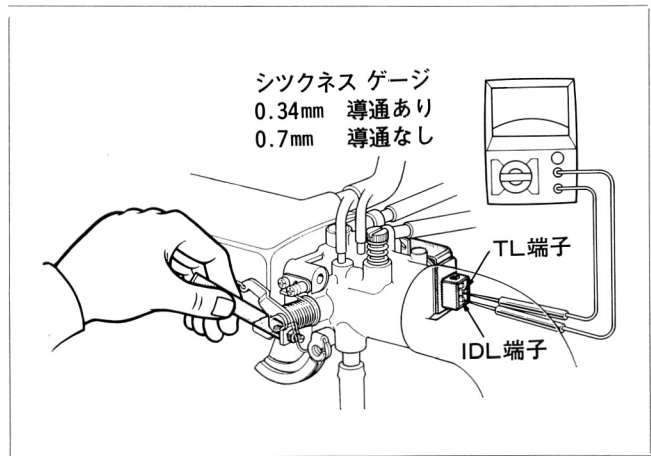


図5-10 スロットル ポジション センサ点検

M5840

取りはずし

- (1) 冷却水を $\frac{1}{3}$ ほど抜き取る。
- (2) スロットル ボデー ホースNo.1, No.2をスロットル ボデー側で取りはずす。
- (3) 次の部品を取りはずす。
 - ① バッテリ ⊖ 端子
 - ② エア クリーナ ホース
 - ③ スロットル ポジション センサ コネクタ
 - ④ バキューム ホース
 - ⑤ エア バルブ ホース
 - ⑥ アクセル ワイヤ
 - ⑦ テンション スプリング
 - ⑧ スロットル ボデー

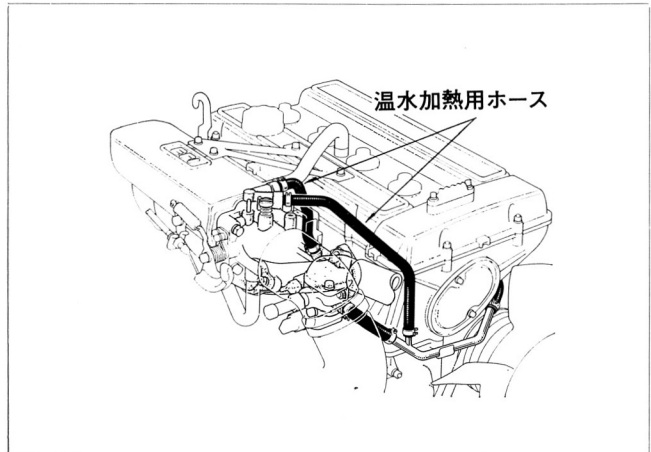


図5-11 スロットル ボデー ホース取りはずし

M7501

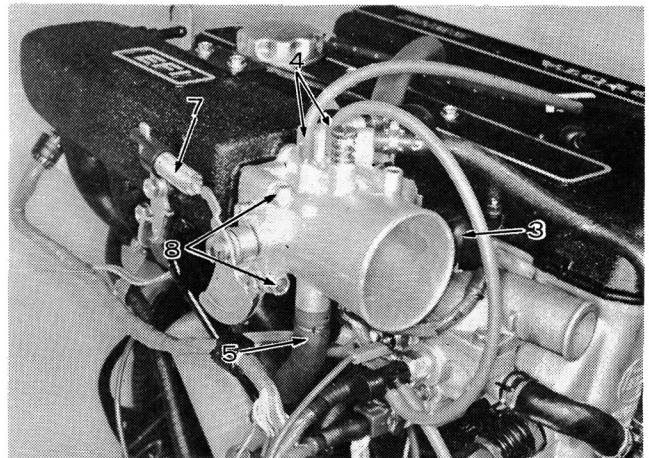


図5-12 スロットル ボデー取りはずし

H6916

点検, 調整

- (1) スロットル ボデー本体点検
 - ① スロットル バルブ シヤフトのガタ
 - ② スロットル ボデーのき裂
 - ③ 各ポートのき裂

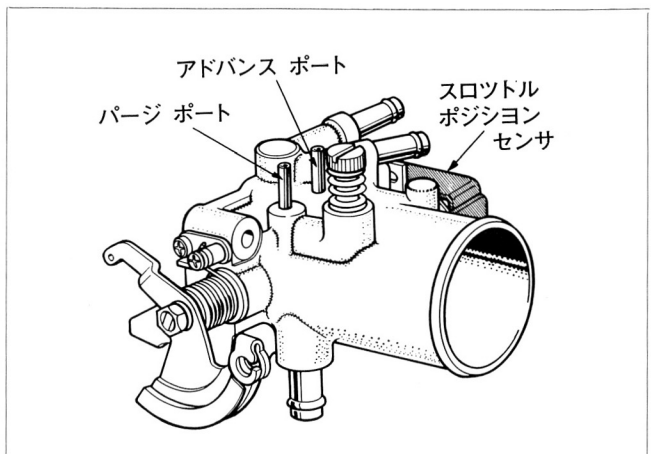


図5-13 スロットル ボデー点検 (1)

M6776

- ④ スロットル バルブを全閉, 全開し動きがスムーズであること。
- ⑤ スロットル バルブ全閉位置でストツパ ボルトとスロットル レバーA部にすき間がないこと。
- ⑥ スロットル バルブ全閉位置でアドバンス ポートがスロットル バルブに対して右図のような位置にあること。

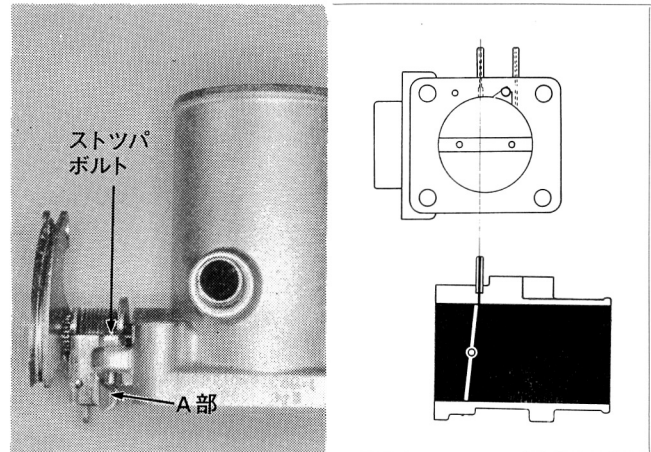


図5-14 スロットル ボデー点検 (2)

H6915 M5823

(2) スロットル ボデー本体調整

車上点検や単体での点検⑤, ⑥で異常のある場合は次の要領で調整を行なう。

—————<注意>—————

スロットル バルブ, ストツパ ボルトは出荷時厳密に調整してあるため, 必要時以外は調整を行なわない。

—————

- ① ストツパ ボルトのロック ナットをゆるめ, ストツパ ボルトがA部と接触しない位置までゆるめる。
そのとき, スロットル バルブが全閉しており, アドバンス ポートが完全に大気圧側にあること。
- ② スロットル ボデーをエンジンに取り付け, 各配管を行なつてエンジンを始動する。
- ③ アドバンス ポートにバキューム ゲージを接続する。
- ④ ストツパ ボルトを締め込んでいきA部と接触した位置より $\frac{1}{4}$ 回転締め込んだ位置でロック ナットをロックする。その後前記のテストを行なう。

(3) スロットル ポジション センサ

- ① 車上点検のほかに, 次のバルブ開度のときの端子間の導通を点検する。

〜〜〜〈要点〉〜〜〜

下記型紙(実寸)を作成して行なうとよい。

スロットル バルブ開度 (全閉位置より)	IDL↔TL	PSW↔TL	IDL↔PSW
15°	導通なし	導通なし	導通なし
25°	↑	導通あり	↑

〜〜〜〈参考〉〜〜〜

バルブ開度20°でパワー接点がONする。

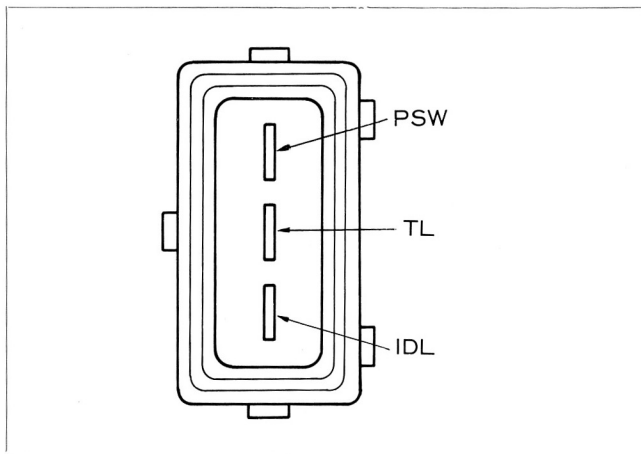
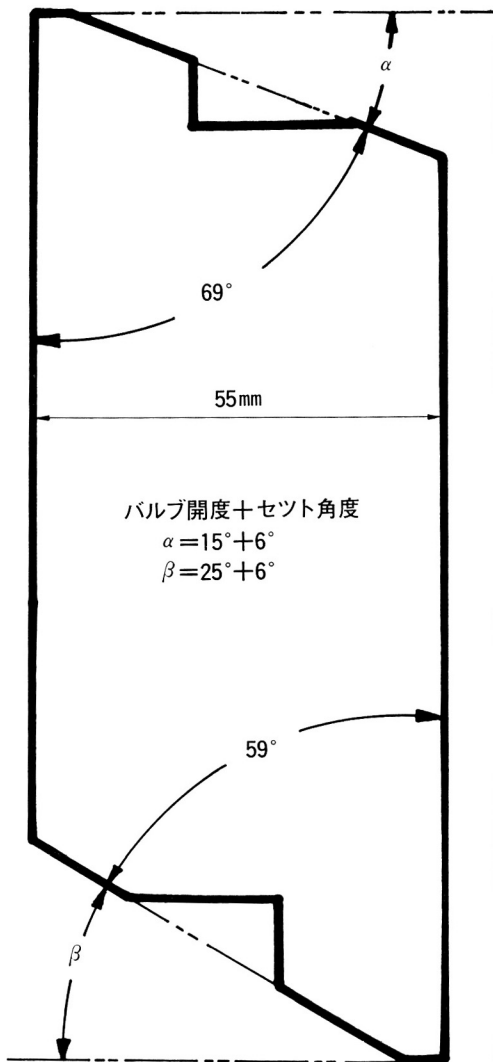


図5-15 スロットル ポジション センサ コネクタ M5807

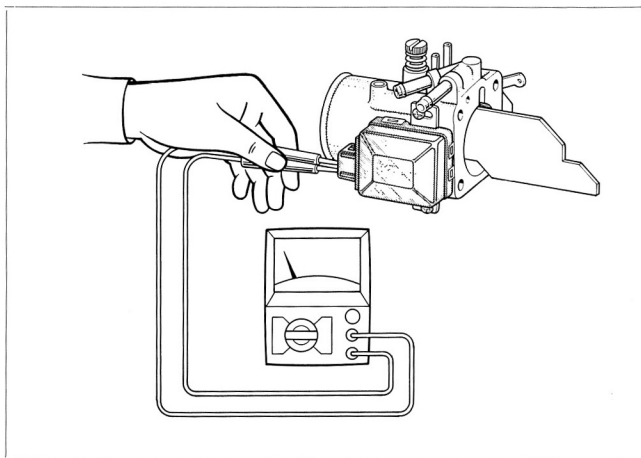


図5-16 スロットル ポジション センサ点検 M6821

② 調整

次の順序で取り付け位置の調整を行なう。

- a. 取り付けボルト 2 個をゆるめる。
- b. スロットル レバーとストツパ ボルトの間に0.55mmのシツクネス ゲージをはさんだ後、IDL↔TL間にテスタを接続し導通がOFFの範囲からセンサを矢印方向に回し導通がONになる瞬間の位置で固定する。
- c. スロットル レバーとストツパ ボルトの間に下表のシツクネス ゲージをはさみIDL↔TL間の導通を点検する。

シツクネス ゲージ厚さ	IDL↔TL
0.34mm	導通あり
0.7mm	導通なし

取り付け

(1) 次の部品を取り付ける。

- ① スロットル ボデー
T=100~160kg-cm
- ② テンション スプリング
- ③ アクセル ワイヤ
- ④ エア バルブ ホース
- ⑤ バキューム ホース
- ⑥ スロットル ポジション センサ コネクタ
- ⑦ エア クリーナ ホース
- ⑧ バッテリ ⊖ 端子
- ⑨ スロットル ボデー ホース No.1, No.2
- ⑩ 冷却水

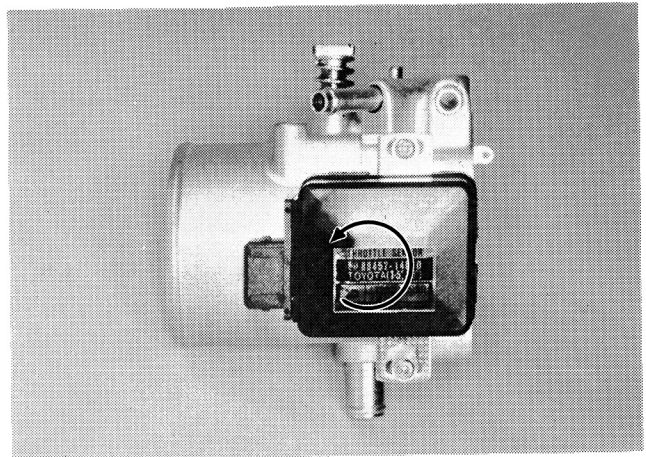


図5-17 取り付け位置調整

H6917

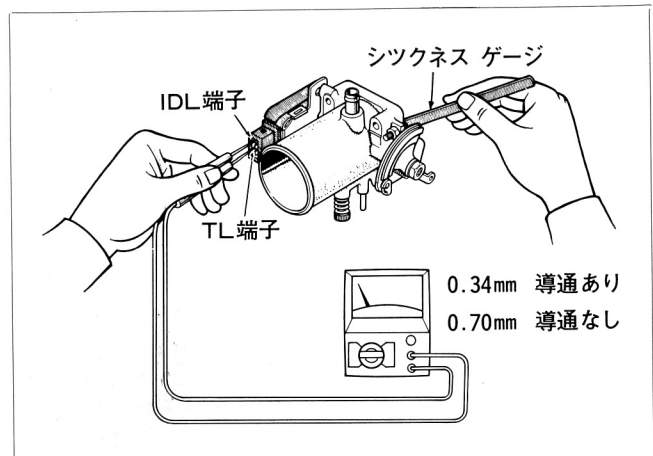


図5-18 調整後の点検

M5830

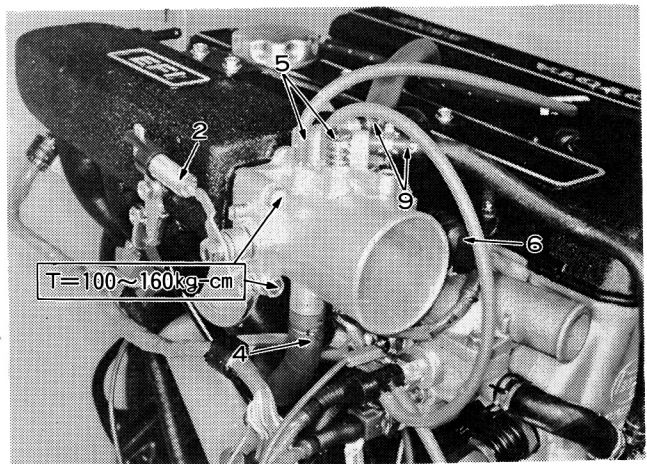


図5-19 スロットル ボデー取り付け

H6916

サージ タンク

取りはずし

(1) 次の部品を取りはずす。

- ① バッテリ ⊖ 端子
- ② エア クリーナ ホース
- ③ サージ タンク ステア, No. 1, No. 2
- ④ 各ホース
- ⑤ コールド スタート インジェクタ用コネクタ
- ⑥ コールド スタート インジェクタ
- ⑦ スロットル ポジション センサ用コネクタ
- ⑧ アクセル ワイヤ
- ⑨ エア バルブ接続ホース
- ⑩ サージ タンク & スロットル ボデー

〈要点〉

1. 冷却水を $\frac{1}{3}$ ほど抜きスロットル ボデー ホース No. 1, No. 2を取りはずしておく。
2. ステア No. 2はサージ タンク側を取りはずし、エンジン マウンティング プラケット側をゆるめておく。

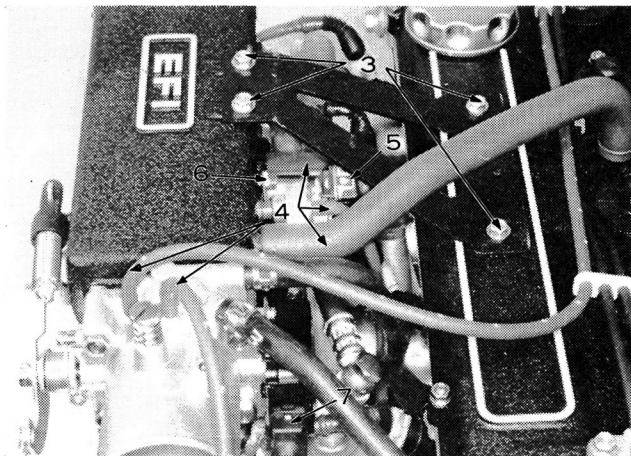


図5-20 サージ タンク取りはずし (1)

H6930

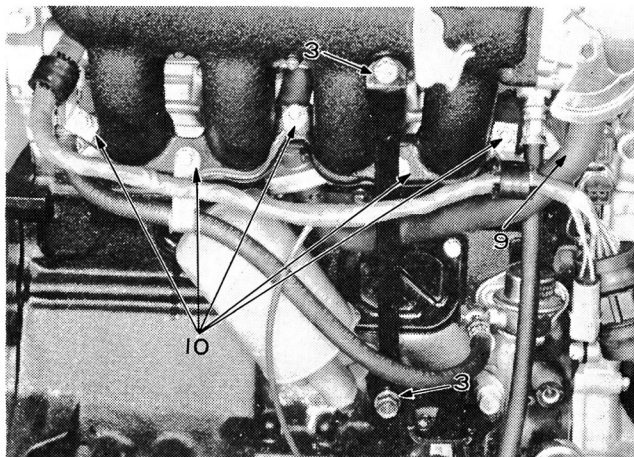


図5-21 サージ タンク取りはずし (2)

H6929

(2) サージ タンクより次の部品を取りはずす。

- ① スロットル ボデー
- ② テンション スプリング
- ③ アクセル ワイヤ サポート
- ④ ガス フィルタ
- ⑤ ユニオン

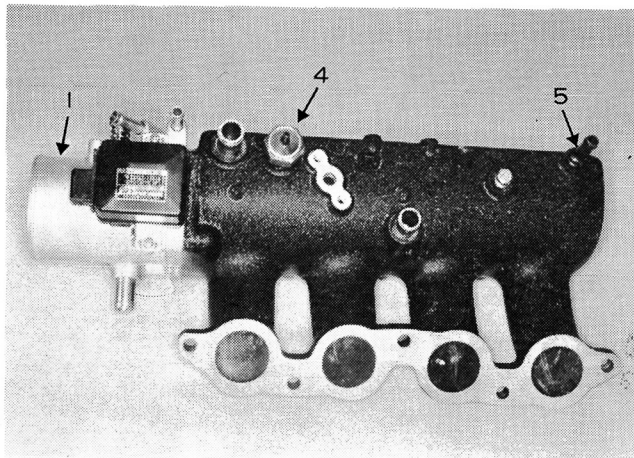


図5-22 サージ タンク分解

H6918

点 検

- (1) マニホールド取り付け面の傷, ひずみ

ひずみ限度0.1mm以下

〈要点〉

右図のように4個所で測定する。

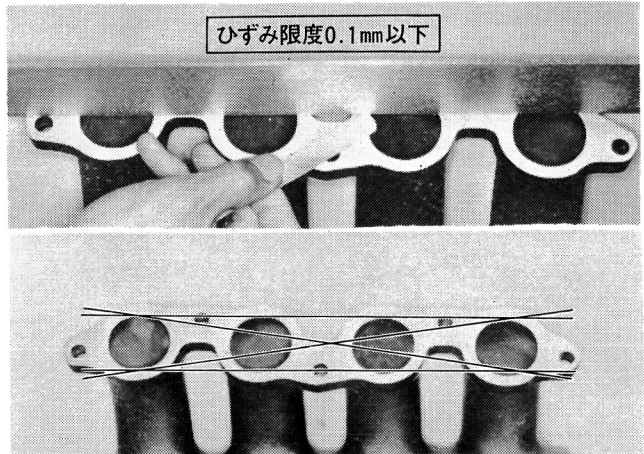


図5-23 ひずみ測定

H6919 H6920

- (2) スロットル ボデー取り付け面の傷, 変形

取り付け

- (1) サージ タンクへ次の部品を取り付ける。

- ① ユニオン
- ② ガス フィルタ
- ③ アクセル ワイヤ サポート

〈要点〉

サポート側凸部をサージ タンク側凹部に入れて取り付ける。

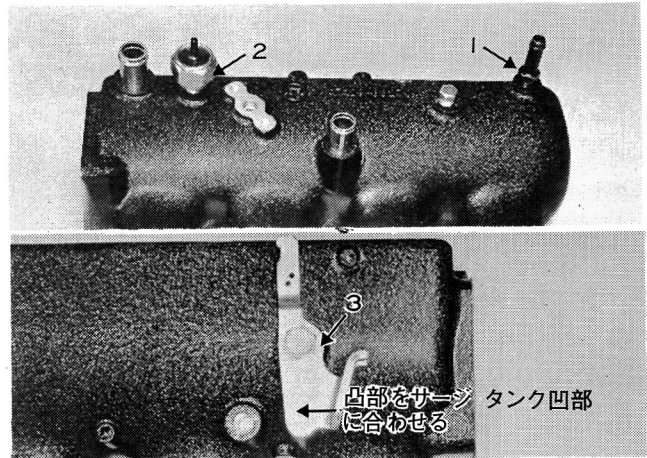


図5-24 サージ タンク組み付け

H6921 H6922

- ④ ガasketを介してスロットル ボデーを組み付ける。

T=100~160kg-cm

- ⑤ テンション スプリング & ダンパ

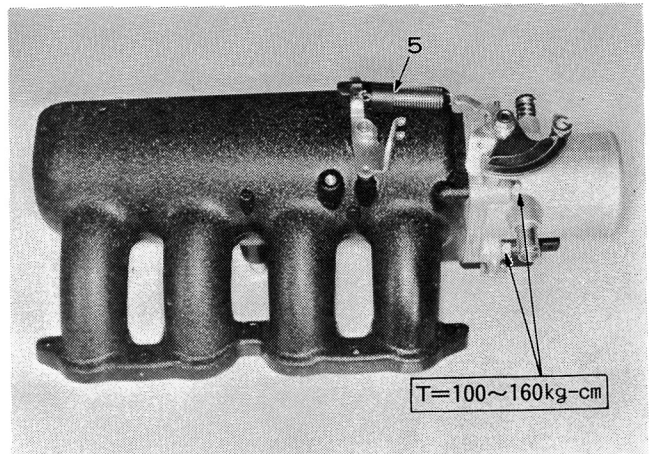


図5-25 スロットル ボデー取り付け

H6923

(2) 次の部品を取り付ける。

- ① ガasket
- ② サージ タンク ウィズ スロットル ボデー
T=190~250kg-cm

~~~~~  
〈注意〉  
~~~~~

ワイヤ ハーネス, フューエル ホースのクランプを共締めすること。

- ③ エア バルブ接続ホース
- ④ スロットル ワイヤ

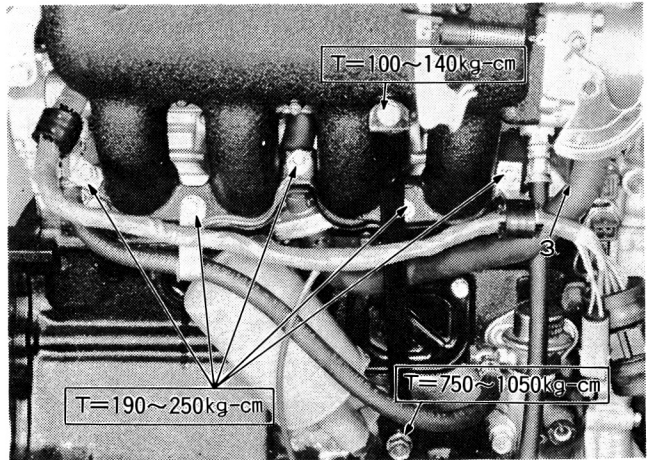


図5-26 サージ タンク取り付け (1)

H6929

- ⑤ スロットル ポジション センサ用コネクタ
- ⑥ コールド スタート インジェクタ
T=50~70kg-cm

~~~~~  
〈注意〉  
~~~~~

ガスケットを忘れないこと。

- ⑦ コールド スタート インジェクタ用コネクタ
- ⑧ 各ホース
- ⑨ サージ タンク ステア No. 1, No. 2

エンジン マウンテイング ブラケット側

T=750~1050kg-cm

サージ タンク, シリンダ ヘッド カバー側

T=100~140kg-cm

- ⑩ エア クリーナ ホース
- ⑪ バッテリ ⊖ 端子
- ⑫ スロットル ボデー ホース No. 1, No. 2

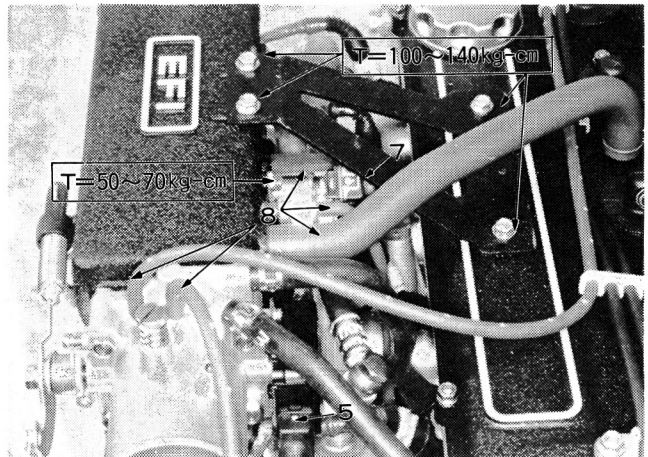


図5-27 サージ タンク取り付け (2)

H6930

(3) 冷却水を入れる。

インテーク マニホールド

〜〜〜〈注意〉〜〜〜

高圧フューエル ホース クランプの脱着については4-2ページ参照のこと。

取りはずし

- (1) 冷却水を抜く。
- (2) 次の部品を取りはずす。
 - ① バッテリ ⊖ 端子
 - ② エア クリーナ ホース
 - ③ サージ タンク ステア No.1, No.2

〜〜〜〈要点〉〜〜〜

ステア, No.2はサージ ターク側を取りはずし, エンジン マウンテイング ブラケット側をゆるめておく。

- ④ 各ホース
- ⑤ スロットル ポジション センサ用コネクタ
- ⑥ コールド スタート インジェクタ用コネクタ
- ⑦ コールド スタート インジェクタへのフューエル ホース ユニオン ボルトをはずし燃圧を抜く。

〜〜〜〈注意〉〜〜〜

燃圧が残っているので, ウェスなどでガソリンが飛散するのを防ぐこと。

- ⑧ アクセル ワイヤ
- ⑨ エア バルブ接続ホース
- ⑩ サージ タンク & スロットル ボデー
- ⑪ エア バルブ用コネクタ
- ⑫ インジェクタ用コネクタ
- ⑬ フューエル ホース (プレッシャ レギュレータ側)
- ⑭ デリバリ パイプ ウィズ インジェクタ
- ⑮ エア バルブ
- ⑯ インテーク マニホールド

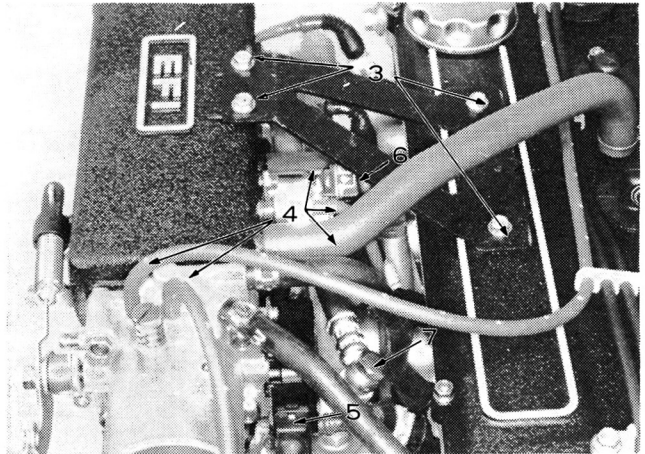


図5-28 インテーク マニホールド取りはずし

H4930

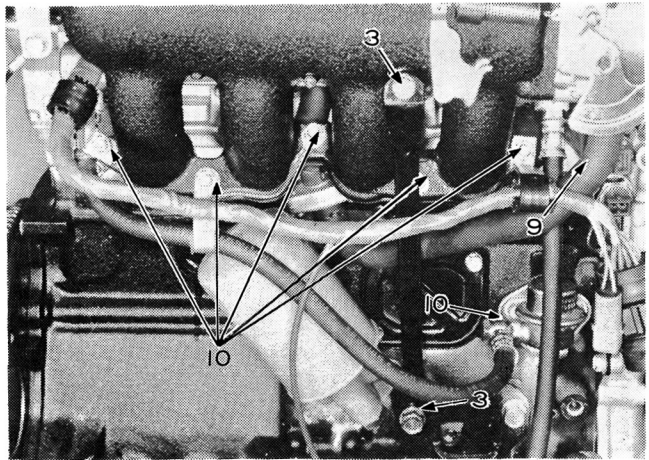


図5-29 サージ タンク取りはずし

H6929

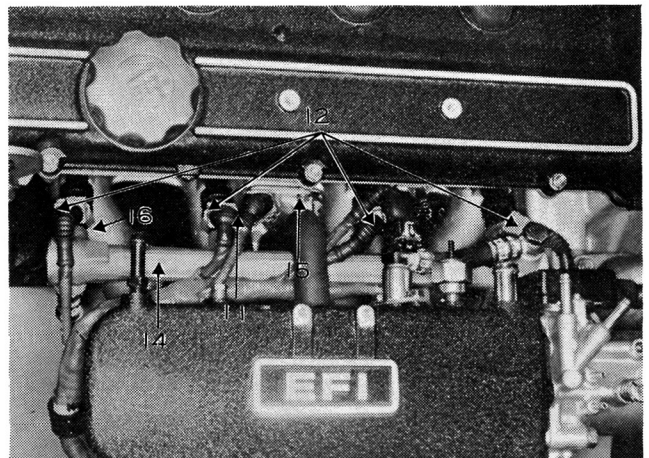


図5-30 デリバリ パイプ取りはずし

H6732

点 検

(1) 次の項目を点検する。

- ① き裂, 損傷
- ② 取り付け面のひずみ
ひずみ限度 0.1mm以下

〈要点〉

右図のように各面4個所で測定する。

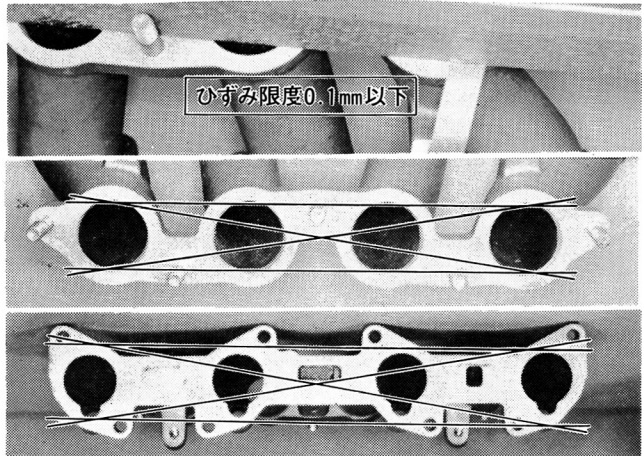


図5-31 インテーク マニホールド点検

H6924~H6926

取り付け

(1) 次の部品を取り付ける。

- ① インテーク マニホールド
T=160~220kg-cm
- ② エア バルブ
T=50~70kg-cm



図5-32 インテーク マニホールド取り付け

H6927

- ③ デリバリ パイプ ウイズ インジェクタ
T=160~220kg-cm

〈要点〉

先にインジェクタ パイプレーション インシュレータをインテーク マニホールドに取り付けておく。

- ④ フューエル ホース ユニオン
(プレツシャ レギュレータ側)
T=250~350kg-cm

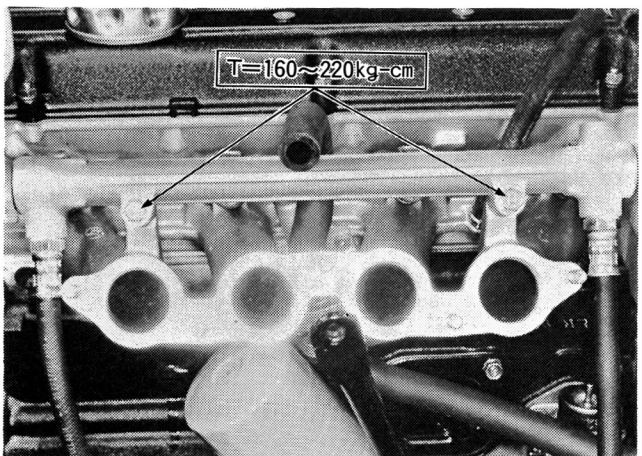


図5-33 デリバリ パイプ取り付け

H6928

- ⑤ インジェクタ用コネクタ
- ⑥ エア バルブ用コネクタ
- ⑦ サージ タンク & スロットル ボデー
T=190~250kg-cm
- ⑧ エア バルブ接続ホース
- ⑨ コールド スタート インジェクタ フューエル ホース
T=250~350kg-cm
- ⑩ アクセル ワイヤ

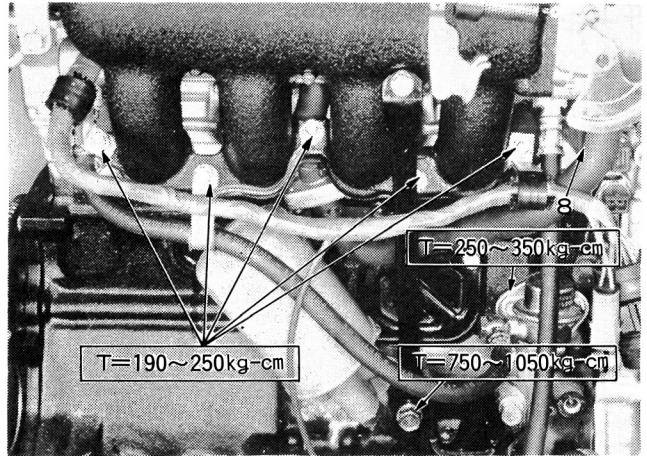


図5-34 サージ タンク取り付け

H6929

- ⑪ コールド スタート インジェクタ
T=50~70kg-cm
- ⑫ コールド スタート インジェクタ用コネクタ
- ⑬ スロットル ポジション センサ用コネクタ
- ⑭ 各ホース
- ⑮ サージ タンク ステア No.1, No.2
エンジン マウンティング ブラケット側
T=750~1050kg-cm
サージ タンク, シリンダ ヘッド カバー側
T=100~140kg-cm
- ⑯ エア クリーナ ホース
- ⑰ バッテリ ⊖ 端子

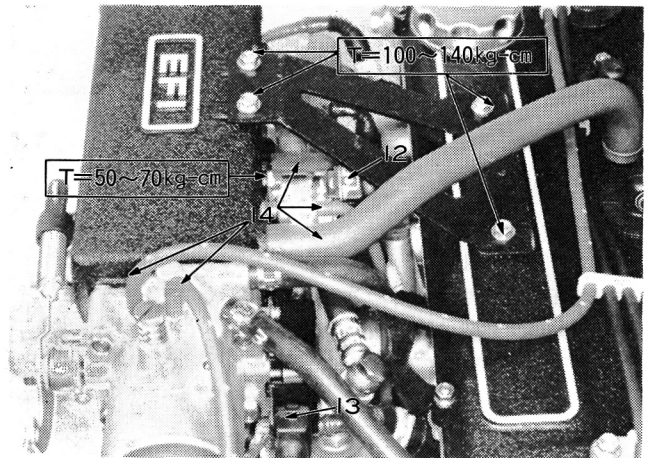


図5-35 各部品取り付け

H6930

(2) 冷却水を入れる。

サーキット オープニング リレー

車上点検

(1) 作動音点検

- ① クランキングの開始と同時にカチツという作動音がすればよい。
- ② フューエルポンプの短絡用端子を短絡すると同時にカチツという作動音がすればよい。

〜参考〜

取付位置は図5-36参照

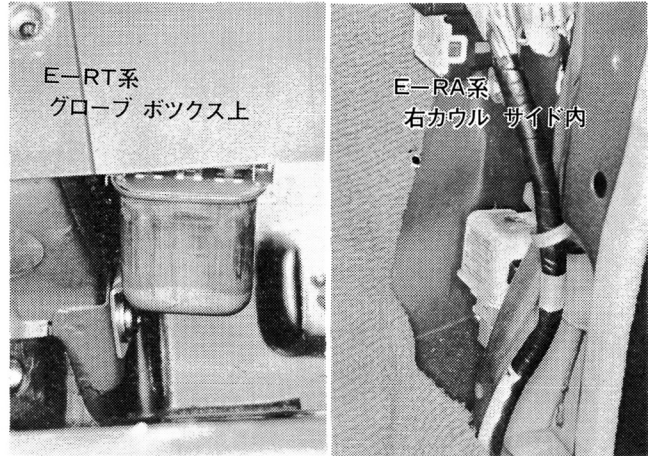


図5-36 サーキット オープニング リレー取り付け位置 H7318 H6931

(2) システム点検

クランキングの開始と同時にFP端子がOV→バッテリー電圧になりエンジンがまわりだしてからも電圧が維持されること。

〜参考〜

クランキングを開始すると同時にFcの端子電圧がOVになれば、エアフローメータのポンプS/Wは良好である。

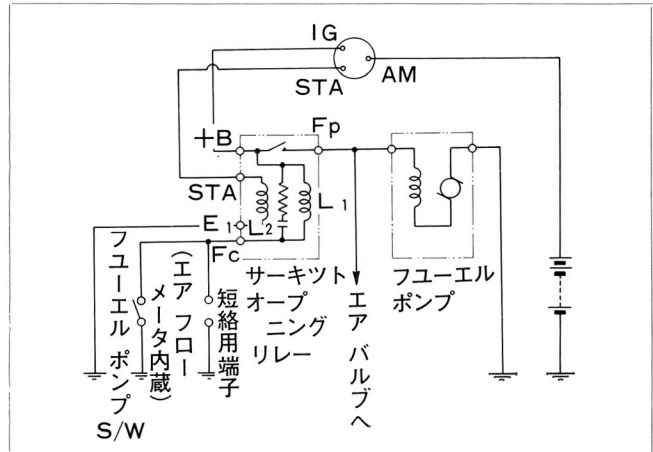


図5-37 回路図

M5817

(3) 抵抗測定

コネクタをはずし次の端子間の抵抗を測定する。

- STA ↔ E_I 30~60Ω
- +B ↔ F_C 80~120Ω
- +B ↔ F_P ∞Ω

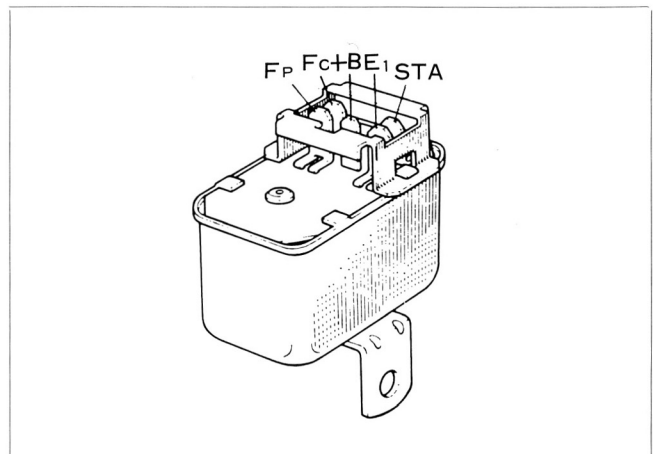


図5-38 リレー端子

S8318

スタート インジェクタ タイム スイッチ

車上点検

(1) 抵抗測定

コネクタ（茶色）をはずし端子間の抵抗を測定する。

ST J ↔ ST A

20～40Ω（冷却水温35℃以下）

40～60Ω（冷却水温35℃以上）

(2) 導通点検

温間時、冷間時にかかわらず ST A ↔ ボデー間に導通があること。

（0Ωではない）

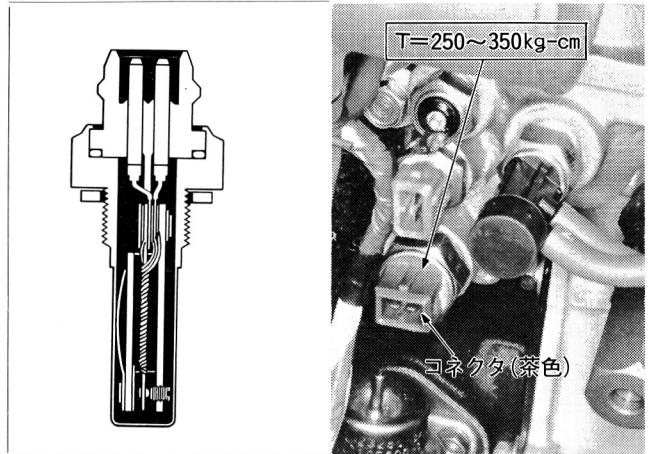


図5-39 取り付け位置

M5775 H6933

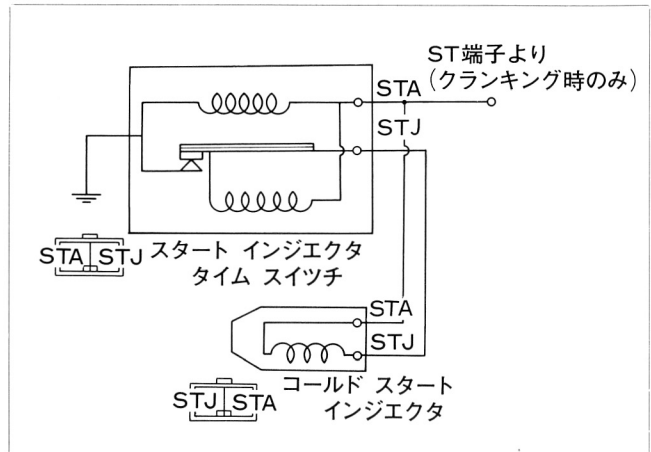


図5-40 リレー回路図

M5822

エア バルブ

車上点検

(1) システム点検

アイドル状態でエアバルブのエアホースをふさいだとき次のようになればよい。

冷間時〔雰囲気温約60℃以下〕

アイドル回転数が落ちること。

温間時〔雰囲気温約60℃以上〕

アイドル回転数が著しく落ちないこと。（200rpm以内であればよい）

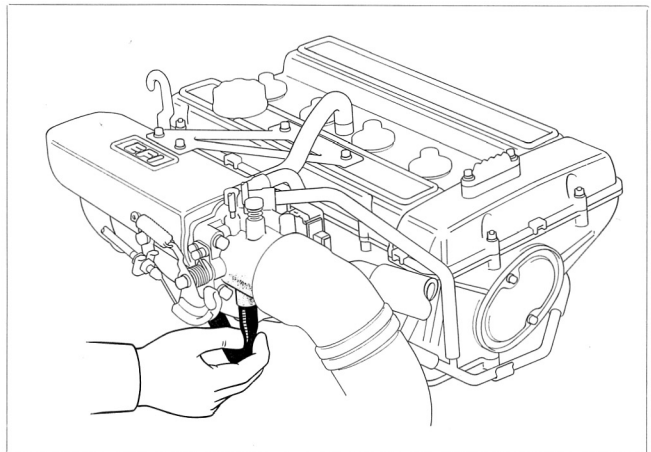


図5-41 エアバルブ作動点検

M6064

(2) 作動点検

エア ホースをはずし目視でバルブが開いているか、閉じているかを点検する。

- ① 霧囲気温が約20°Cのとき右図のようにバルブが開いていること。
- ② 暖機後バルブが全閉していること。(全閉していても少々エア漏れはある。)

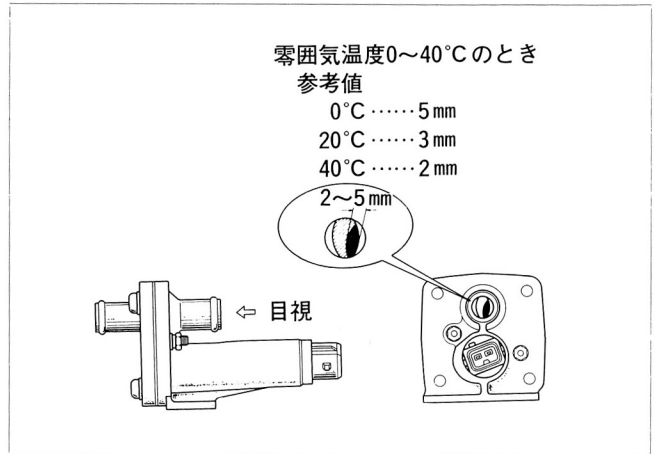


図5-42 目視点検

M5780

(3) 抵抗測定

コネクタをはずし端子間の抵抗を測定する。

FP ← E₁ (霧囲気温約20°C)

50~65Ω

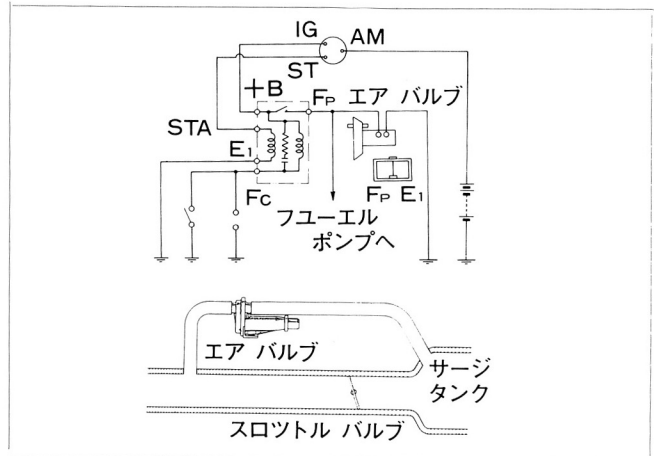


図5-43 系統図

M5831 M2806

メイン リレー

車上点検

(1) 作動音点検

イグニション スイッチをONにしたときメイン リレーにカチツという作動音のすることを確認する。

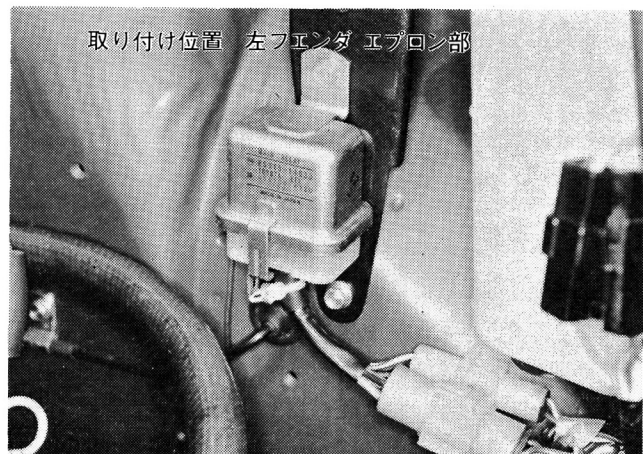


図5-44 メイン リレー取り付け位置

H6932

(2) システム点検

イグニション スイッチをONにしたときメイン リレーのコネクタ 2 番, 4 番端子にバッテリー電圧があればよい。

(3) コネクタをはずし次の点検をする。

① 端子間抵抗

- 1 ↔ 2 ∞Ω
- 3 ↔ 4 ∞Ω
- 5 ↔ 6 40~60Ω

② 5 ↔ 6 端子間にバッテリー電圧を直接加えたとき次の端子間の導通を点検する。

- 1 ↔ 2 0Ω
- 3 ↔ 4 0Ω

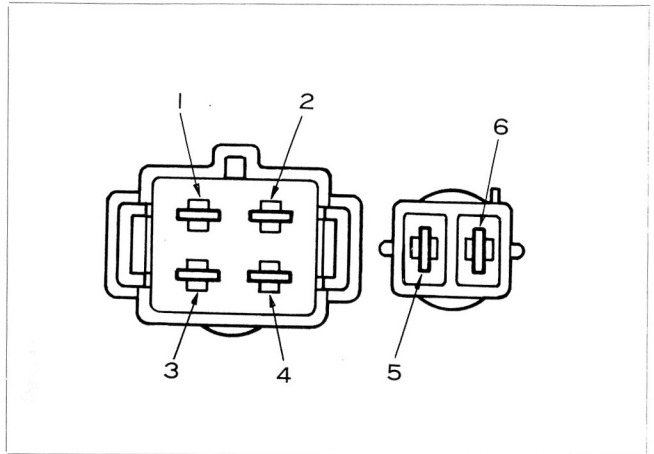


図5-45 メーン リレー コネクタ

M5832

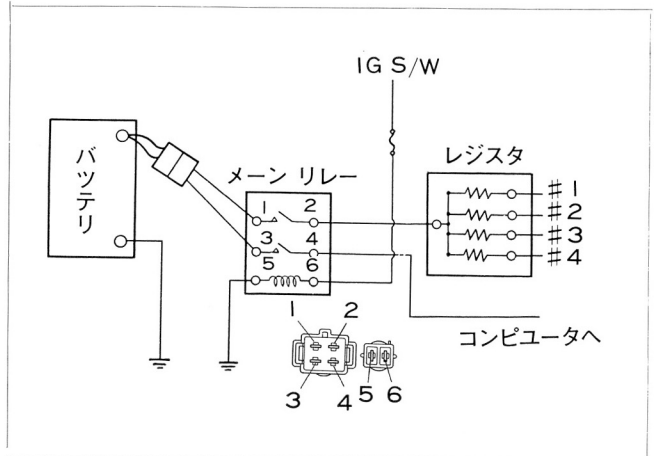


図5-46 回路図

M5810

水温センサ

車上点検

(1) 抵抗測定

コネクタ (緑色) をはずして水温センサの端子間の抵抗値を測定する。

T HW ↔ E₂

水温(℃)	抵抗値 (KΩ)
-20	10~20
0	4~7
20	2~3
40	0.9~1.3
60	0.4~0.7
80	0.2~0.4



図5-47 取り付け位置

H6933

点 検

氷を入れた水の中に水温センサを入れ、
徐々に加温して

温度 ↔ 抵抗値

の関係を点検する。

(抵抗値は前記の表参照)

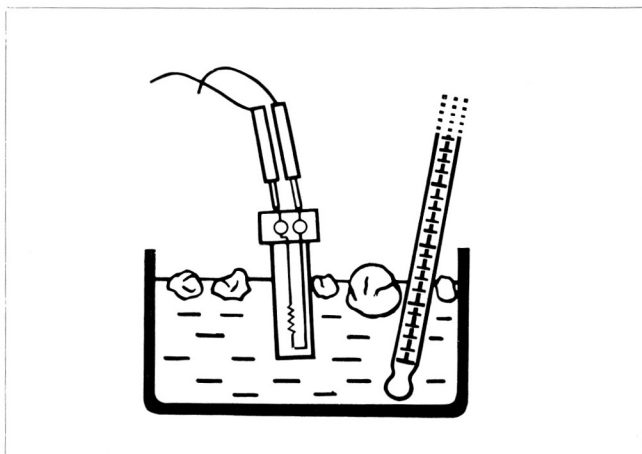


図5-48 水温センサの点検

S8324

ソレノイド レジスタ

車上天検

コネクタをはずしレジスタの端子間の
抵抗を測定する。

+B ↔ #1 ~ #4

各 5 ~ 7 Ω

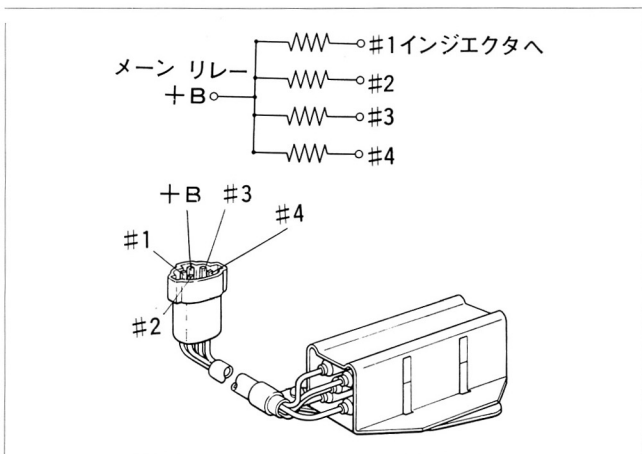


図5-49 レジスタ端子

M3104 M6534

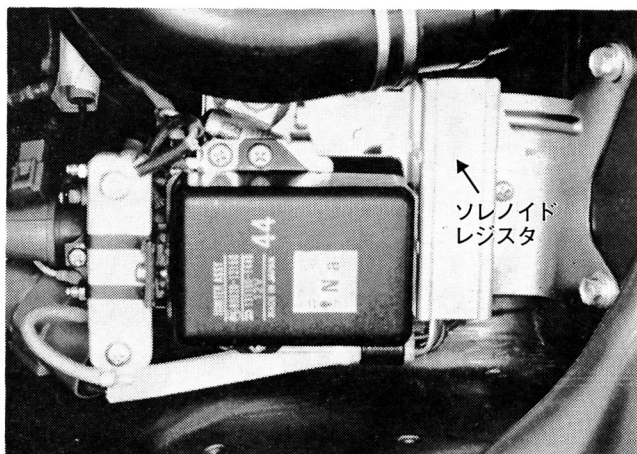


図5-50 取り付け位置

H6934

コンピュータ

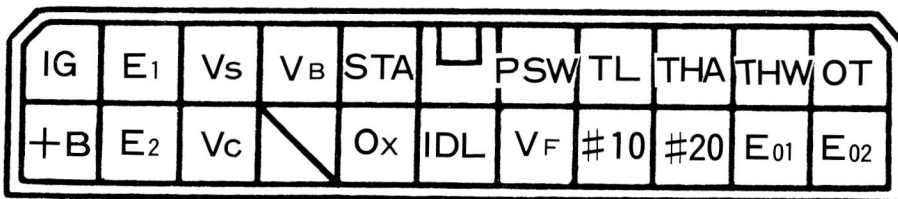
左カウル サイドの内側に取り付けられている。

車上点検

E F I チェツカまたはサーキット テスタを使用して点検する。

〈注意〉

メス側コネクタにテスト棒を差し込むときは必ずコネクタの裏側から差し込むこと。



端子記号	接 続 部	端子記号	接 続 部
IG	イグニション コイル (一次側)	PSW	スロットル ポジション スイッチ
+B	電 源 +	VF	フイード バック チェツク端子
E1	電 源 アース	TL	スロットル ポジション スイッチ
E2	エア フロー メータ	#10	インジェクタ#1, #2
VS	エア フロー メータ	THA	吸気温センサ (エア フロー メータ内)
VC	エア フロー メータ	#20	インジェクタ#3, #4
VB	エア フロー メータ	THW	水温センサ
STA	スタータ スイッチ	E01	パワー部 アース
Ox	O ₂ センサ	OT	エミツション コントロール コンピュータ
IDL	スロットル ポジション スイッチ	E02	パワー部 アース

図5-51 コネクタ端子配列

M0396

(1) 電圧測定

イグニション スイッチをONにしコネクタはコンピュータに接続したままで裏側からテスト棒を差込む。

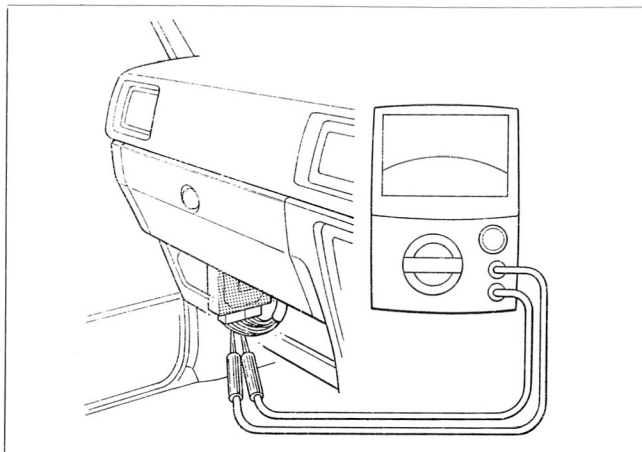


図5-52 テスタ棒の差し込み方法

M5834

イグニション ⊖ 信号	I G ↔ E ₁	約4~6 (クランキング時) 約6~7.5 (アイドル回転時) 約8.5~10.5 (3000rpm)
バッテリー電圧	+ B ↔ E ₁	約12
エアフロー メータ	V _S ↔ E ₂	約1.5 (メジャリング プレート全閉時) 約6.5 (メジャリング プレート全開時) 約4 (アイドル回転時)
	V _C ↔ E ₂	約6~7
	V _B ↔ E ₂	約10
スタータ信号	S T A ↔ E ₁	約9~11 (クランキング時)
スロットル ポジション センサ	I D L ↔ E ₁	約10 (スロットル バルブ全閉時) 0 (スロットル バルブ全開時)
	P S W ↔ E ₁	0 (スロットル バルブ全閉時) 約10 (スロットル バルブ全開時)
	T L ↔ E ₁	約10
噴射信号	#10 ↔ E ₁	約12
	#20 ↔ E ₁	約14 (アイドル回転時) 約13 (3000 pm)
吸気温センサ	T H A ↔ E ₂	約5 (吸入空気温度 20℃)
水温センサ	T H W ↔ E ₂	約1.8 (冷却水温 80℃)
O ₂ センサ信号	V _F ↔ E ₁	約4~10で10秒間に8回以上振れる。 (暖機後, 2500 rpm で90秒間レーシングし, その後) (2000rpmで保持した状態で測定する。)

(単位: V)

(2) 抵抗測定

〔測定要領〕

イグニッション スイッチをOFFにし、コネクタをコンピュータからはずし端子間の抵抗を測定する。

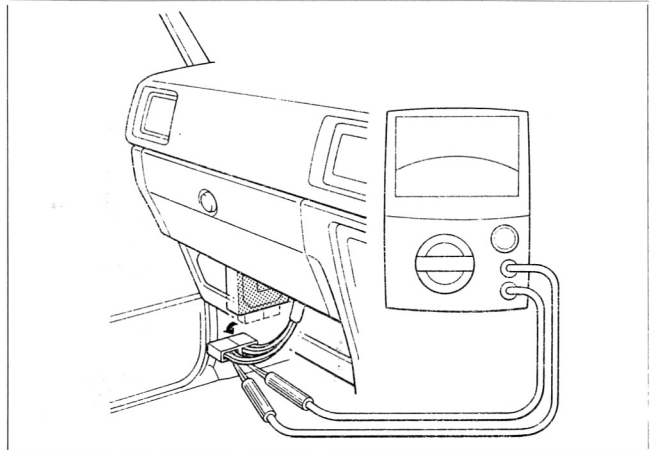


図5-53 テスタ棒の差し込み方法

M5835

測 定 端 子	測 定 条 件	基 準 値		
スロツトル ポジシヨ ン セ ン サ	TL↔IDL	スロツトル バルブ全閉	0 Ω	
		スロツトル バルブ全開	∞Ω	
	TL↔PSW	スロツトル バルブ全閉	∞Ω	
		スロツトル バルブ全開	0 Ω	
	IDL ボデー TL ↔ PSW アース	—	∞Ω	
水 温 セ ン サ 吸 気 温 セ ン サ	THW↔E ₂ THA↔E ₂	水 温 吸 気 温 (°C)	-20	10 ~ 20 KΩ
			0	4 ~ 7 KΩ
			20	2 ~ 3 KΩ
			40	0.9 ~ 1.3KΩ
			60	400 ~ 700Ω
			80	200 ~ 400Ω
エ ア フ ロー メ ー タ	V _B ↔E ₂ V _C ↔E ₂	—	200 ~ 400Ω	
		—	100 ~ 300Ω	
	V _S ↔E ₂	メジヤリング プレート全閉	20 ~ 60Ω	
		メジヤリング プレート全閉から ゆつくり開けていく。	20 ~ 1000Ω (波状に変化しつつ 大きくなる。)	
O ₂ セ ン サ	O _x ↔ ボデー アース	冷 間 時	ほぼ∞Ω	
		温 間 時	∞Ωまたは0Ωでないこと。	
ア ー ス 回 路	E ₁ E ₂ ボデー ↔ E ₀₁ アース E ₀₂	—	0 Ω	

フューエル カット機能点検

エンジン ブレーキ時のフューエル
カット機能を点検する。

- (1) エンジンを暖機する。(80°C)
- (2) スロットル ボデー～エア バル
ブ～サージ タンク間のホースを
スロットル ボデー側およびサー
ジ タンク側でそれぞれはずす。
- (3) スロットル ボデーのユニオンと
サージ タンクのユニオンを内径
13.5φ程度のホースで直結する。

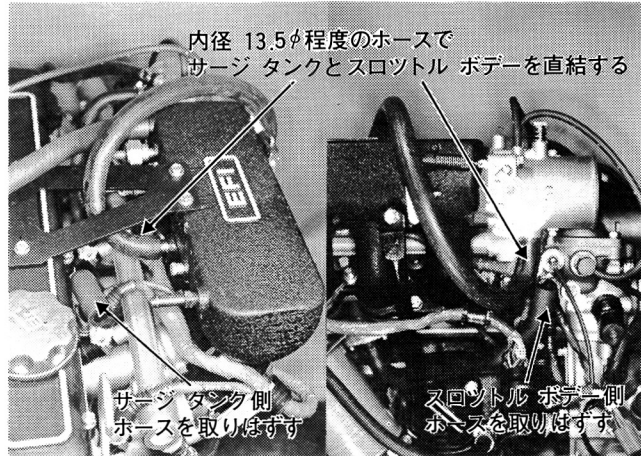


図5-54 減速時フューエル カット システム点検 H8088 H8089

〈参考〉

ヒータ ホースなどを利用するとよい(長さ 800mm 程度以上)

- (4) エンジンを再始動したとき, エンジン回転が約1300~1700rpmの範囲でハンチングを繰り返すことを確認する。

燃料カット回転数 (80°C)	1700rpm
復帰回転数 (80°C)	1300rpm